

[060] 文獻探究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/6770314>

出版情報：文獻探究. 60, 2022-03-31. 文献探究の会
バージョン：
権利関係：



『文献探究』六十号をお届けします。今号は、二本の論考を収録し、新企画「コラム◎古典のひろば」を開始しました。千葉稿は、『とりかへばや』に現れる「三瀬川」について論じています。古田稿は、前号に続き『論語講義筆記』第二巻を翻刻しています。新たに設けたコラムは、川平先生に執筆していただきました。「古典」というテーマを掲げ、今後、同人の皆さまから広く短文を募ります。ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

*

口絵は、本学附属図書館春日政治・和男文庫蔵『八境界註』と、国語学・国文学研究室で所蔵する政治先生のノート『抄物調査』を掲載しました。両先生の旧蔵書は、和分類を中心に附属図書館に収められていますが、その他、ノート類や書簡、書き入れや蔵書印のある洋装本も残っています。今回は、抄物研究という観点から、その一端をお示ししました。口絵にふさわしい資料がございましたら、解説を添えて編集部までお寄せください。

*

研究室は、昨年四月、岡田貴憲先生（中古文学）をお迎えし、新たなスタートを切りました。オミクロン株の流行もあり、新型コロナウイルスの影響はいまだ残っていますが、対面形式の演習が復活するなど、研究環境改善の兆しもうかがえます。昨今の事情を反映してか、今号は投稿数が少なく、充実した紙面をお届けすることができませんでした。お詫び申し上げます。皆さまにおかれましては、本誌への積極的な投稿を検討していただければ幸いです。

*

前号に引き続き、博士後期課程の古田龍啓が代表を務めております。今号の編集・会計事務には、古田の他、博士後期課程の藤田優子・高須芳之介が当たりました。次号（六十一号）の投稿締め切りは来年二月末日、三月刊行の予定です。多数のご寄稿をお待ちしております。

（古田記）